

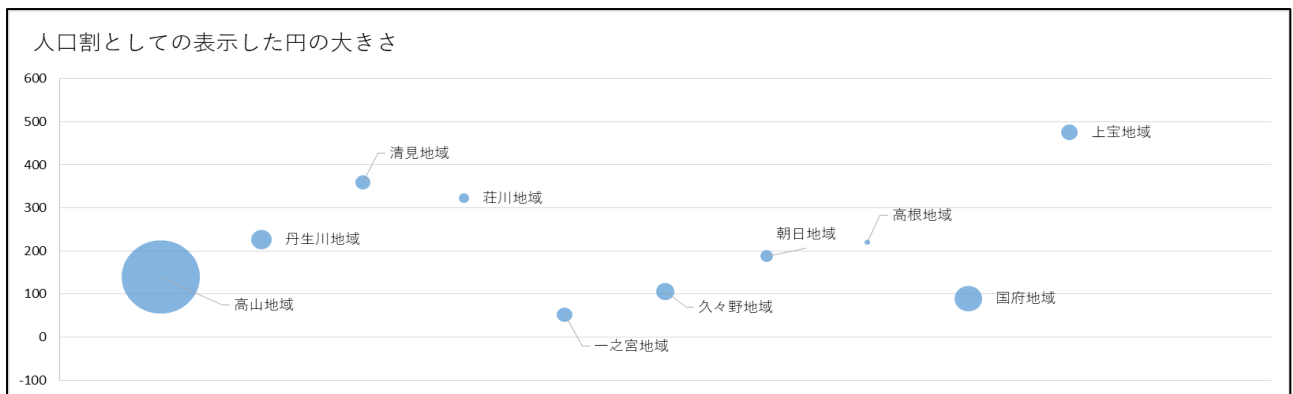
高山市の火葬場建設候補地の選定に対する会派としての考え  
「新火葬場建設地は新宮地域での実現を望む」

高山市議会創政・改革クラブ

1.人口重心を考慮すれば、旧市内西部地域が望まれるのに、なぜ丹生川地域への立地にこだわるのか？

別表にあるとおり、平成31年度の高山市人口は全体で87,839人。市内各地域の人口は以下のとおりである。（各地区の人口比率を円の大きさに移し替えて表示してみた。）

図表①



高山市人口(H31現在)			
No.	地域	面積(km <sup>2</sup> )	人口(人)
1	高山地域	139.57	61800
2	丹生川地域	227.15	4261
3	清見地域	359.16	2353
4	荘川地域	323.28	1090
5	一之宮地域	51.89	2489
6	久々野地域	106.1	3416
7	朝日地域	187.37	1613
8	高根地域	220.66	320
9	国府地域	89.05	7565
10	上宝地域	475.12	2932

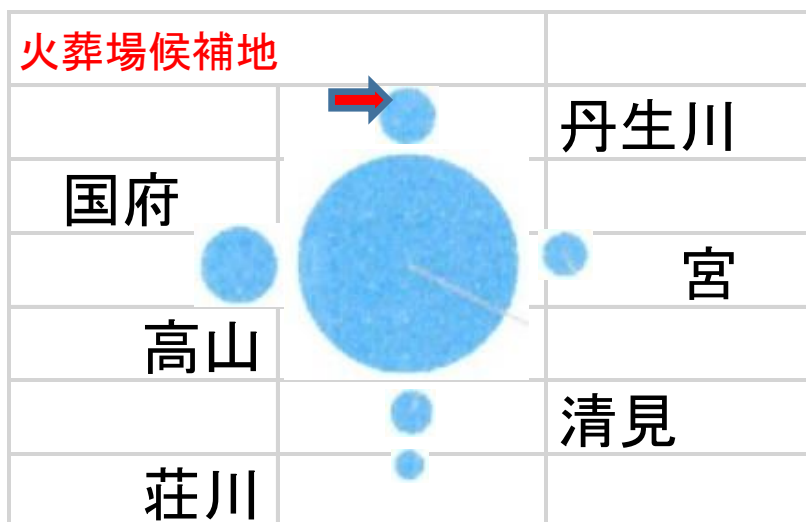
将来的にはどうであれ、現在の火葬場使用状況を見れば、上宝地域はすべてとは言わないが神岡にある飛騨市火葬場を利用することが多く、又南大野の久々野、朝日、高根地域は久々野火葬場を利用、国府地域は多くが古川にある飛騨市火葬場を利用している現状がある。そうした点

を考えれば新火葬場に関する立地に関しては、高山地域を中心とした丹生川地域、清見地域、荘川地域という東西軸と南北に隣接する一之宮地域、国府地域を中心にその立地を探る必要がある。高速交通体系が整備され各地域間の交通の利便性が向上したとはいえ、今回は高山地域を中心とした東西軸を中心に据えた選考にならざるを得ないのではないかと。

その上で人口重心がどこにあるのかを見てみたのが図表②である。

上記図表①で示した地区別人口の円を、その位置関係を加味して表してみたのが左の図表

②図表②



②である。一番上が丹生川地域、中心に高山地域、その下が清見地域、荘川地域となり、宮、国府地域がそれぞれ左右に位置付けられる。そうしてみた時に利用者という観点から見た高山地域の人口は 61,800 人という事であり、その人口重心から見れば、立地は高山地域が求められて当然と考えられる。それも交通体系も考慮すれば高山地域の西部が一番の好適地と考えるの

が普通ではないか。(火葬場候補地の丹生川地域は上記の図でもお分かりのとおり、想定火葬場利用者対象地区の中では一番東の端に位置し、人口重心からも外れた地域である。)なぜこの立地に市はこだわるのか。

## 2. 寄付に関する市の説明への疑問

今回の火葬場建設候補地を決定する際、市は丹生川地区内大萱にある土地について「某教団から寄付の申し出を受けた」と説明されてきた。しかし過日当該教団から出された議会への要望事項の説明に出向かれた教団関係者は、「この寄付については市側からの打診があり、その意向に応じたもの」と 正・副議長、産業建設委員会正・副委員長の前で明言されたとお聞きをしたところである。

なぜそうしてまで、市は丹生川地域の立地にこだわるのか。そうした疑問が説明しきれず、福祉文教委員会への候補地決定の説明時にも委員会に受け入れられなかったのではないか。

先日の議会による「新宮地域市民意見交換会」では、「旅行村線との新たな接続と延伸による利便性から、原山での火葬場建設に反対しない」との発言もあったと聞いている。建設検討委員会の結論は 3 候補地の選考までであり、最終選考は市の責任において検討し決定するものである。高山地域の市民にとっては、人口重心を考慮しない今回の建設案に素直に賛成することは出来ないと考える。

## 3. 高山地域各葬儀場から火葬場候補地への到達時間

図表③は一定の条件下で実測した市内葬儀場から火葬場候補地への到達時間の表である。高山市は斎場としての建設をしない方針である以上、現状では葬儀に際し市民の多くが市内の葬儀場を使用する事となる。

当然、その時間的距離的要素は検討課題となるはずである。そうした点を検証してみた。結果は図表③上記のとおり、その利便性は一目瞭然である。また、市の計測とは異なる結果となっており、市の検証の在り方や根拠に疑問を持たざるを得ない。

図表③

高山地区内各葬儀場から火葬場候補地への到達時間			
出発点	経路	候補地	到達時間
総和町地内会場	三福寺	丹生川	20分25秒
総和町地内会場	国分寺通り・長坂	丹生川	19分58秒
総和町地内会場	※R41・R158	新宮	12分30秒
総和町地内会場	R41・緑ヶ丘・原山口	新宮	11分55秒
総和町地内会場	国分寺通り・緑ヶ丘・原山口	新宮	11分20秒
総和町地内会場	※R41・上岡本・松中西・山尚	新宮	11分04秒
総和町地内会場	※国分寺・上岡本・松中西・山尚	新宮	10分10秒
岡本町地内会場	桐生・三福寺	丹生川	(22分上野経由)
岡本町地内会場	中山・緑ヶ丘	新宮	(10分)
岡本町地内会場	中山・新宮街道	新宮	(12分)
石浦町地内会場	上江名子・漆垣内	丹生川	19分27秒
石浦町地内会場	R41・R158	新宮	9分30秒
下切町地内会場	新張・町方	丹生川	15分23秒
下切町地内会場	新張・広野	丹生川	15分17秒
下切町地内会場	八千代橋・三福寺	丹生川	(25分)
下切町地内会場	新宮街道	新宮	12分00秒
冬頭町地内会場	冬頭・三福寺	丹生川	(22分)
冬頭町地内会場	八千代橋・新張	丹生川	(19分)
冬頭町地内会場	上方面・新宮街道	新宮	(11分)
冬頭町地内会場	下方面・新宮街道	新宮	(12分)
	※は旅行村線完成後に時短可能性		
		※ 法定速度40は40～45、50にならない速度で計測	
		※ 法定速度50は50～55、60にならない速度で計測	
☆創政・改革クラブにて、11月の路面乾燥時に実測したもの(基準を統一するため、実験者は1名)。市がマップ上で計測し発表した、大萱と新宮両候補地の到達時間差5分とは、大きく開きがあることが判明した。尚、カッコ内の数値はグーグル検索で検証した。後日実測予定。			

#### 4.いつもイニシャルコストにこだわる市の姿勢にも疑問を感じる

私たちが政治の要諦として大切にしている視点は「市民を縛る制約条件は解除の対象である」という点である。今回それを実現するための努力は尽くされたのか。

多くの市民が望む早期の火葬場建設への思いに、検討委員会を立ち上げ学識経験者をはじめ、多くの市民意見の聴取をされた事を理解しないものではない。又、候補地の絞り込みに関して建設に伴うイニシャルコストをその選考基準に入れることも排除するものではない。しかし、ごみ焼却場問題がそうであったように、その点を強調して優劣を判断し、関係住民の意向を反映しない考えでは問題は解決しない。ごみ焼却場建設問題の時も、判断の妥当性という事で持ち出されたのはイニシャルコストの問題であった。多少建設コストはかかっても、多くの市民

に支持され受け入れられる合意に至る着地点は丁寧に探るべきである。世代間の負担の公平性という事で説明されるのは、「起債による建設」がその解決策となるという論法である。こうした点を考慮に入れ市民と向き合う必要性を強く感じる。

今回の問題における「寄付ならば取得費用はかからない」と言うに等しい合意形成への手法は、ごみ焼却場建設に関する問題における「現在地なら取得費は勿論道路建設・上下水道建設・電気設備などインフラ整備に係るイニシャルコストはかからない」という市の強引さを、再度垣間見せられたと感じている。

この点に関する説明責任を果たせるのかは、「福祉文教委員会」の審査の過程でも指摘され続けたところではないか。

この問題における人口重心に関する考察を今一度検討し、委員会の中で示された懸念の払しょくを図られたい。私たち会派は、その為には丹生川地域よりは旧市内西部に位置する新宮地域での建設実現を強く望むところである。